

# 恭賀新年

(1月1日 NHK NEWS WEB)

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた女川町の中心街では元日、海に向かって設けられた遊歩道の先から初日の出が上がり、多くの人が新年の訪れを祝いました。

壊滅的な津波の被害から再建した女川町の中心街は、JR女川駅から海に向かって伸びる遊歩道の先に初日の出が上がるように作られたことから、初日の出を見に訪れる人が年を追って増えています。

元日は午前7時ごろに水平線の上の雲の間から太陽が顔をのぞかせ、訪れた多くの人たちは写真を撮ったり、歓声を上げたりして新年の訪れを祝っていました。

また、遊歩道沿いの駅前前の商店街では、初日の出に合わせて笛や太鼓の演奏とともに獅子舞が披露され、訪れた人たちを楽しませていました。



2020年スタート各地で初日の出  
宮城 女川町  
午前7時ごろ



2020年スタート各地で初日の出  
女川町中心街  
震災の壊滅的な津波被害から再建



2020年スタート各地で初日の出  
女川町中心街  
JR女川駅から海に向かって伸びる遊歩道の先に初日の出が上がるよう設計



2020年スタート各地で初日の出  
最後ちゃんとまん丸に見えて1年間がんばれそうだなと思った



2020年スタート各地で初日の出  
復興の出来上がった町から日が昇っていくのは町民としても誇りに思う



MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め  
復興支援「すけさきた」しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である



地元の40代の男性は「復興してできあがった街から日の出が上がるということ、とても感慨深いです」と話していました。

岩手県 関市から家族で訪れていた小学4年の男の子は、「最初は雲がかかりましたが、最後はまん丸の太陽が見られました。ことし1年間もがんばることができそうです」と話していました。

(2019年12月17日 NHK NEWS WEB)

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町の中心部で整備が進められている復興祈念公園が一部完成し、17日、開園します。職員など43人が犠牲になったかつての防災対策庁舎の近くにも行くことができるようになります。

震災で800人以上が犠牲になった南三陸町では、祈りをささげて教訓を伝える「震災復興祈念公園」を被害が大きかった町の中心部に整備することにしていて、一部が完成したことから、17日開園します。

入園できるのは、およそ6ヘクタールのうち、高さおよそ20メートルの「祈りの丘」など1.2ヘクタールのエリアです。また公園内にあり、職員など43人が犠牲になったかつての防災対策庁舎は工事が続いていて立ち入り禁止となっていますが、今回の開園で庁舎の全景が見える近くの場所まで行けるようになるということです。

17日は午前10時から除幕式が行われ、「祈りの丘」の頂上に遺族の了解が得られた804人の犠牲者の名前を記した名簿が納められ、その後、一般公開されます。

18日以降は、午前9時から午後4時まで開放されます。また、公園のすべてが完成して全面オープンとなるのは、来年秋ごろになるということです。

正月休みに宮城県南三陸町の震災復興祈念公園を訪れた。海風が吹く丘の上。子どもたちが親に漢字を教わりながら石碑の文字を声に出して読んでいた。「いま、碧(あお)き海に祈る 愛するあなた 安らかなれと」▼碑に刻まれているのは東日本大震災で両親を失った男性の鎮魂メッセージ。碑には町内の犠牲者804人の名簿が納められている。メッセージと名簿を揮毫(きごう)したのが河北書道展特別顧問の書家大友青陵さんだった▼名簿について「亡くなった一人一人に思いをはせながら書いた」と語っていた。関係者によると、涙を流し、何度も失敗しながら804人の名前を書いたという。昨年末、石碑の完成を見届けるようにして84歳で死去した▼日展で宮城県初の特選になった県書道界の第一人者。河北書道展企画会議の加納鳴鳳議長は「書道界のエンジンのような存在だった」と語る。練習量の多さは語り草。「書いて書いて書きまくった」。そう自慢げに語った笑顔が目につく▼中国の古典を基本にした诗情豊かな書が魅力だった。弊社の本社社屋の外壁にも作品が掲げられている。「再生へ心ひとつに」。力強い筆跡に祈りのような思いがにじみ出ている。大友さんが残した墨痕の数々。その輝きはこれからも多くの人の胸に刻まれることだろう。(2020.1.8 河北新報『河北春秋』)